

〈彫漆草花文 皷箱〉1931年 香川県立ミュージアム蔵

高松市美術館開館25周年記念

磯井如真展 没後50年

2014年 2月18日(火)-3月23日(日)

●休館日=月曜日 ●開館時間=火~土曜日、祝日/9:30~19:00 日曜日/9:30~17:00 入室はいずれも閉館30分前まで

入場料一般800円(640円)大学生500円(400円)高校生以下無料

- ●()内は前売りおよび団体20名様以上の料金、身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳所持者は入場無料。
- ●前売券は、美術館1階受付・高松市役所生協・ゆめタウン高松サービスカウンター・宮脇書店本店および 南本店にて、開展前日まで販売。

主催:高松市美術館

共催:NHK高松放送局 四国新聞社 協力:公益社団法人日本工芸会四国支部

助成:財団法人自治総合センター





ISOI Joshin

^{改美}に受えた。 磯井如真〈明治16年(1883)-昭和39年(1964)〉は、香川郡宮脇村(現・高松 市亀岡町)に生まれました。明治36年(1903)香川県工芸学校用器漆工科を 卒業後、大阪の山中商会で、中国の美術工芸品の修理や加工に従事し、様々 な工芸技術を修得します。帰郷後、玉楮象谷の遺作を通じて独自の研究を 重ね、大正2年(1913)凸版印刷をヒントに、点彫り蒟醬を創案。従来の線彫 りにはない奥行と立体感を出すことによって、蒟醬の新たな表現領域を生 み出しました。昭和2年(1927)帝展に工芸部が設置されると、如真は卓抜 した意匠と造形力による独創的な作品を発表し、帝展、新文展を舞台に活 躍、昭和13年(1938)第2回新文展《彫漆 石南花之図手箱》で特選受賞。特に 昭和6年(1931)第12回帝展に出品した《彫漆草花文 皷箱》は、彫漆と点彫り

50th Anniversary

蒟醬を併用した作品で如真の出世作として知られています。また、如真は 様々な加飾技法を自家薬籠中の物としており、新材料のレーキ顔料で白か ら紫にぼかして塗り重ね、透明なカットグラスのような質感を出す技法 や、堆漆板で作った文様を切り抜き、器胎に貼り付けて立体感を強調する 技法など、創意あふれる技と卓抜した造形感覚には、讃岐漆芸の粋を見い だすことができます。如真は、終生、高松で讃岐漆芸の近代化の確立に尽 力し、「讃岐漆芸中興の祖」と称され、昭和31年(1956)には蒟醬で国の重要 無形文化財保持者(人間国宝)に認定されました。

本展覧会は如真没後50年を記念し、初期から晩年に至る代表作約80点を 展示いたします。

没後50年 機井如真展



(蒟醬 竹林之図 棚)1943年 香川県立ミュージアム蔵



(蒟藤 色紙筒 龍之図)1942年



(乾漆 手篇)1933年



(サボテンにホロホロ鳥 彫漆 飾棚)1936年



(蒟醬 草花文 八角食籬) 1956年 東京国立近代美術館蔵



(蒟醬 筆筥 銀菓アカシヤ之図) 1957年 高松市美術館蔵

関連イベント

記念講演会「近代工芸と磯井如真」

日 時:3月1日(土)14:00~15:30 師:金子賢治(茨城県陶芸美術館館長、 多治見市美濃焼ミュージアム館長)

所:1階講堂

員:100名(入場無料)

ワークショップ「彫漆でブローチをつくろう」

日 時:3月8日(土)13:00~

所:香川県漆芸研究所7階造形実習室

師:山下哲二(公益社団法人日本工芸会正会員) 容:漆材を使用して素敵なブローチを制作します。

象:小学5年生以上 員:18名(親子可)

受講料:500円(材料費1,500円)

*申し込みは、1月15日(水)8:30より電話で受付

当館学芸員によるギャラリートーク

日 時:3月22日(土)14:00~ 所:2階企画展示室(観覧券必要)

美術館ボランティアcivi(シヴィ)によるギャラリートーク

日 時:会期中の毎日曜日・祝日/11:00~・14:00~

所:2階企画展示室(観覧券必要)

常設展のお知らせ

●第5期常設展 1月7日(火)~3月30日(日) インスタレーション・映像・写真/戦後の漆芸 ※特別展のチケットでご覧いただけます。



交通のご案内

JR四国-JR高松駅から南へ徒歩15分

ことでん一万町駅または

片原町駅下車、徒歩10分 バス路線ー紺屋町バス停下車、徒歩3分

駐 車 場一美術館地下に公営駐車場

(有料、乗用車144台収容)

